

1 主 題 子どもの権利

2 教材名

28 子どもの権利条約

3 主題・教材について

「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」は、1989年の第44回国連総会において採択され1990年に発効した、子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約である。前文と54か条の本文からなり、生存、発達、保護、参加という包括的な子どもの権利を実現・確保するために必要となる具体的な事項を規定している。

この条約では、子どもが保護の対象であるとともに、権利の主体であることがうたわれている。子どもの権利を学習することから、自身のもつ権利を認識させたい。同時に、自分の権利と同じように他者の権利を尊重し、互いを大切にしようとする態度を培いたい。

（関連教科・領域：社会、特別活動）

- 4 ねらい
- ・子どもにとって必要なものと権利とを関連づけて理解する。
 - ・子どもの権利条約について知る。

- 5 指導計画
- 第1次 子どもの権利について考えることから、自らを権利の主体者として認識する。
- 第2次 「子どもの権利条約」を読み、子どもの権利について具体的に知る。

6 展開例

第1次

○ねらい 子どもの権利について考えることから、自らを権利の主体者として認識する。

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	・生き物を飼育した体験を発表し合う。	・どのような世話をしたかが話題の中心となるようにする。	
展開	「ウサギの権利」（アクティビティ）をやってみよう。 ・「ウサギの権利」（アクティビティ）の《活動A》を行う。 ・黒板等書かれている、ウサギが元気に成長するために必要なものを確認しながら、「権利」とはどのようなものであるかを具体的にイメージする。 ・ウサギの権利を保障する責任の所在を明らかにする。 ・《活動B》を行う。 ・子どもの権利を保障する責任の所在を	・発表された内容を、黒板もしくは模造紙などに書き出していく。 ・「元気に成長するために必要なもの」を「権利」と定義づけ、「ウサギは生きていくため、これらの権利をもっている」という説明をする。 ・「権利」という言葉は、「その事柄をもつことのできる力」や「資格」など、やさしい言葉で定義すると分かりやすい。 ・「ウサギがもっている権利を守る責任はだれにあるのか」という発問から、その権利を守る責任は、飼い主（保護している者）にあることを確認する。 ・発表された内容を、黒板もしくは模造紙などに書き出していく。 ・子どもの権利についての意識を高める。 ・「子どもたちは、これらのものに対する権利をもつべきか」という発問を行う。 ・「子どもがもっている権利を守る責	資料

	明らかにする。	任はだれにあるのか」という発問から、その責任は、大人にあることを確認する。	
まとめ	学習をふり返ろう。 学習をふり返り、感想を出し合う。		

第2次

○ねらい 「子どもの権利条約」を読み、子どもの権利について具体的に知る。

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	前回の学習を思い出す。	「権利とはどのようなものか」「子どもの権利を守る責任はだれにあるのか」という発問をする。	
展開	「子どもの権利」について考えよう。 - 本文「子どもの権利条約」を読む。 「子どもの権利条約」と《活動B》で作った「一覧表」を見比べる。 - 自分たちの「一覧表」ではなく、「子どもの権利条約」にはある権利とはどのようなものかを考える。 - なぜ、自分たちは考えつかなかったような権利が「子どもの権利条約」にはあるのかを考える。	「子どもの権利条約」には、世界中の全ての子どもが守られるべき権利について書かれていることを知らせる。 - 日本は、「子どもの権利条約」を批准しているので、子どもの権利を守る責任が国にあることを知らせる。 「子どもの権利条約」は、子どもたちの権利を守り、必要なものを提供し、子どもたちが周りの社会に参加できるようにするためにあることを説明する。 - 共通項目を見つけ出すことを通して、自分たちの力で「子どもの権利」を確認できたことに気づかせる。 - 世界の様々な国の子どもたちの暮らしに思いを寄せられるようにする。 ※「ともだち」を聴くことも考えられる。	DVD 「ともだち」
まとめ	学習をふり返ろう。 学習をふり返り、感想を出し合う。		

【教材の出典】 「子どもの権利条約」（公益財団法人 日本ユニセフ協会）

【資料】

「ウサギの権利」（アクティビティ）

《活動A》 ウサギの権利について考えてみよう。

- 4～6人のグループになる。自分たちが世話をするペットのウサギがいると仮定し、そのウサギに名前をつけ、【ワークシート1】に書く。ウサギが元気に成長するために必要なものについて考え、【ワークシート1】に書き込んでいく。
※「えさ」「水」「わら」「小屋」「なかまのウサギ」「運動」などを挙げると予想される。
- 各グループの結果を発表し、黒板等に出す。
- ウサギが必要とするものを確実に得られるようにする責任はだれにあるのかを考え、【ワークシート1】に書き込む。
※「自分たち」「ウサギの飼い主」などの答えが出てくると予想される。

【ワークシート1】

ウサギの名前（ ）
1 ウサギが元気に成長するために必要なものを書きましょう。
2 ウサギが必要とするものを確実に得られるようにする責任は、だれにありますか。

《活動B》 子どもの権利について考えてみよう。

- ① 各グループに配布された【ワークシート2】の一番上に「子どもたち」と書く。そして、「子どもたちが元気に成長し、安全に、健康に、幸せに暮らすために必要なものについて考え、【ワークシート2】に書き込んでいく。
※状況に応じて、「食べもの」「水」「家」「家族」「友だち」「教育」などが出てくるように働きかける。
- ② 各グループの結果を発表する。
※発表された内容を、黒板もしくは模造紙などに「一覧表」にして書き出していく。
※4つの子どもの権利（「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」）に分けながら書き出していくのもよい。
- ③ 子どもたちが元気に成長し、安全に、健康に、幸せに暮らすために必要なものすべてを、確実に得られるようにする責任はだれにあるのかを考え、【ワークシート2】に書き込む。
※「大人」「親」「家族」などの答えが出てくると予想される。

【ワークシート2】

()
1 子どもたちが元気に成長し、安全に、健康に、幸せに暮らすために必要なものを書きましょう。
2 子どもたちが必要なものすべてを、確実に得られるようにする責任は、だれにありますか。

- ④ 次の質問について考え、「一覧表」にさらに必要な事柄を加えていき、発想を広げていく。
「子どもたちが元気に成長し、安全に、幸せに、健康に暮らすように守られたり、周りの社会（家族、学級、学校、地域等）にかかわったりするためには、他にどんなものが必要ですか。」